

# YUKI KOBAYASHI PORTFOLIO





## 第1章 卒業制作作品



## 小林優希

1999年 生まれ

滋賀県出身

2年次からセルフポートレート作品の制作を始め、3年次からはオリジナルのミニチュアとセルフポートレートを組み合わせた作品を制作している。

## 第一章 卒業制作作品

- ・ 制作方法
- ・ 制作小道具
- ・ 作品解説
- ・ 今後の展望
- ・ 卒業制作作品に至るまで

## 第二章 セルフポートレート作品

## 第三章 自主制作作品



” 全てのものは確かに意味を持って存在している ”

私たちの身の回りはたくさんの「モノ」で溢れている。  
それは大小様々存在し、当たり前のように私たちの生活に根付き、  
当たり前のように消費されている。

そういった存在を作品として昇華することで身近にある  
「当たり前」を見直し、日々の生活の豊かさに気づく。  
そして自分自身が画面に加わることで私が存在することを知る。

この作品の鑑賞者が身の回りの小さな存在に気づき、意識を向ける  
きっかけになればと思う。

2022 前期

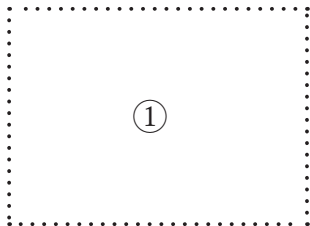
「試着室」

使用メディア：サランラップの箱

展示サイズ：1110 × 1550mm







①「病院」

2022年 前期

使用メディア：薬の箱

展示サイズ：1110 × 1585mm

②「図書館」

2022年 後期

使用メディア：チョコレートの箱

展示サイズ：1110 × 1590mm

③「旅館」

2022年 後期

使用メディア：入浴剤の箱

展示サイズ：1110 × 1580mm

## <制作手順>

1. ミニチュアを作る。
2. ミニチュアを撮影する。
3. 撮影に使用する道具（大きい薬やジップロックなど）を制作する。
4. ミニチュアの写真を大きく印刷する。
5. 印刷したミニチュアの写真を背景紙にしてセットを作る。
6. 背景紙の前に人物が立って撮影する。



一つの作品の撮影に  
約3時間、300枚程度  
の写真を撮影する。

撮影風景



<制作した小道具>

実際のパッケージを大きく印刷し、  
パネルに張り合わせたり切り抜くなどして制作した。

<主な材料>

- ・アルミホイル
- ・透明ボウル
- ・発泡スチロール
- ・布団圧縮袋
- ・絵の具
- ・パネル
- ・カップ麺の容器
- ・透明生地
- ・タオル
- ・緩衝材 など



シートの部分はパネルに  
アルミホイルを貼った。  
透明カプセル部分はボウル、  
薬本体はカップ麺の容器を  
2つ張り合わせている。  
文字は印刷したものを切り  
抜いて貼った。

「病院」より

## <作品解説>

“「当たり前」を見直すきっかけ作り”のために設けた制作条件

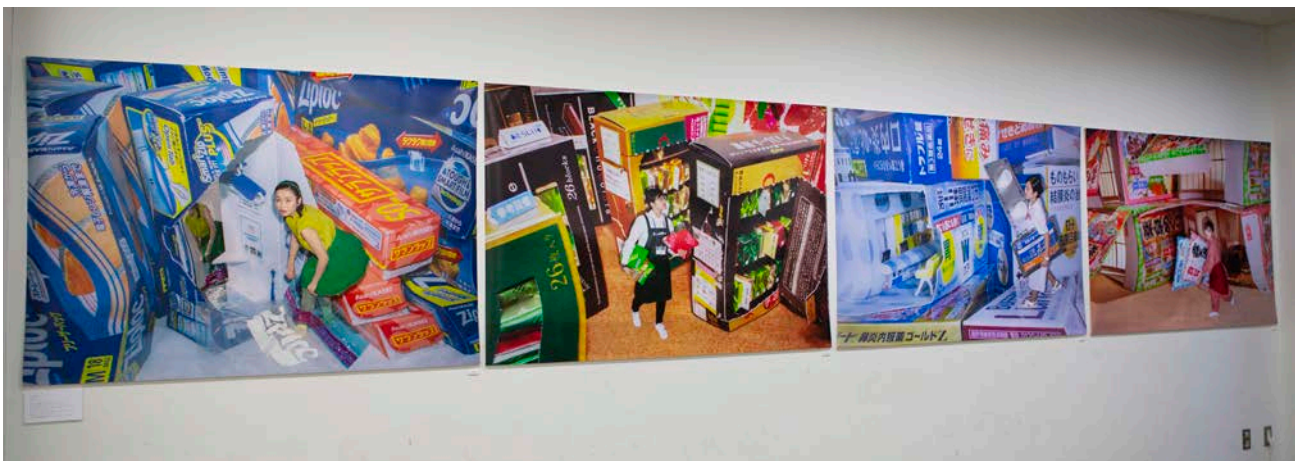
- ①ミニチュアには必ず手軽に手に入る商品の空箱を使用すること
- ②必ず私自身が物語の登場人物になりきって画面に加わること

- ① 箱の選定は十分に時間をかけ、まず自分自身が身の回りの小さな豊かさを知ることから始める。
- ② 客観的な目線で自分自身を知ることにもつながる。

## <この作品がもたらすこと>

普段の生活では「ゴミ」としてすぐに捨てられてしまうものもこうして作品に昇華することで新しい意味が生まれる。

私たちは、人はそれぞれ違う当たり前を持っていることを知らねばならないと考える。自分の中の当たり前を一步離れた別の視点から見ることで周りの豊かさに気づく。そして身近なところから少しずつ環境が変わり、少しでも多くの人が過ごしやすと感じる世界につながっていくような、その小さなきっかけとなるように制作を行っている。



<今後の展望>

私にとってメディア芸術とは？

身の回りの細かな気づきを、自分の身体というメディアを通して複数の「切り口」を持った作品へと変容させること



**演劇的表現**

ポーズや表情・衣装作りやメイクなど

**立体物の表現**

ミニチュア制作や小道具の制作・セットの製作など

**絵画的な表現**

全体的にテーマカラーを設定するなど

切り口をさらに増やして、コンセプトに対してより説得力のある画面作りを行っていきたい。

例えば…

ミニチュアに使用する素材の幅を増やす

使用する商品の販売会社への調査

自分の作品を多くの人に知ってもらうための発表形態の研究

<卒業制作作品に至るまで>



制作作品

2年次

3年次 4月

5月

制作詳細

フォトグラフィック・プレゼンテーションの課題で初めてセルフポートレート作品を制作した。

ビデオアートコンストラクションの課題で初めてミニチュアを作成した。

ミニチュアとセルフポートレートを組み合わせた初めての作品。

お菓子の箱を使用。

<制作手順>

1. ミニチュアを作る。
2. ミニチュアを撮影する。
3. 人物を撮影する。
4. ミニチュアの画像と人物の画像を合成する。



6月

物語性が見えるような構図やポーズを  
試行錯誤した。  
制作方法は前回と同じ。  
蚊取り線香とろうそくの箱を使用。

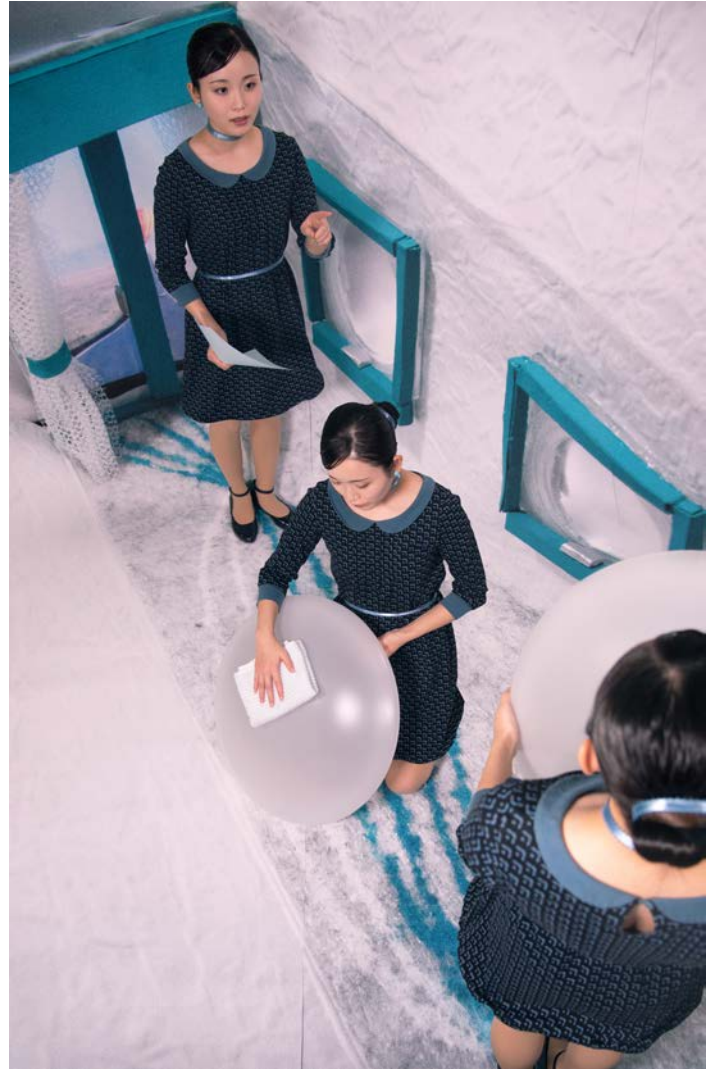


9月

合成を行う方法では画面の奥行き感やリアリティ  
が表現できず、大きく制作方法を見直した。  
このシリーズの一番最初に制作したミニチュアを  
再度利用。

<制作手順>

1. ミニチュアを作る。
2. ミニチュアを撮影する。
3. ミニチュアの写真を大きく印刷する。
4. ミニチュアの写真を背景紙にし、前に人物が立って撮影。



11月

1月

制作方法は前回と同様。

これまでは箱の漠然とした雰囲気から画面を構成していた。

この作品からははっきりと物語の一部が見えてくるような構成を目指し制作した。

左から殺虫剤の箱、コンタクトレンズの箱、マスクの箱を使用。

有志学外展「憑依する "null" 展」

2021/1/29~30

相模原市民ギャラリーにて開催。





3年次 4月

6月

大学院

制作方法は継続し、画面の構成を大きく変えた。  
これまでは使用している箱が何の箱かわからなかったため、  
画面に箱の外側（商品として見える面）を必ず入れるようにした。  
また、商品そのものを小道具として作成したことでより世界観の  
明確化につながった。

本シリーズの制作をさらに続ける。  
細かな技法や画面構成などをさらにブラッシュアップさせる。



## 第2章 セルフポートレート作品



2020年 制作作品

「光と影」

セルフポートレートを行うきっかけとなった作品。

自由な課題であったことから、これまでの自分の辿ってきた道を振り返れるような内容にした。

白い服を着た自分は光。

自分自身の影が幼い頃に遊んできたぬいぐるみでできており、心の支えとなっている様子。

黒い服の自分は影。

ぬいぐるみの影が自分自身となっており、今は遊ばれなくなったものも大切な思い出の一つであることを表している。







2020年 制作作品

「悪戯」

セルフポートレート二作目。

特定の色調をテーマに制作する課題。  
世界観を持った作品を制作することを目標に  
制作を始めた。

この作品で初めて合成を行う。

撮影地：滋賀県 信楽







### 第3章 自主制作作品

<イラスト作品>

オリジナルのキャラクターを使用した  
グッズや年賀状などを制作している。



HAPPY NEW YEAR! 2022





<表紙、裏表紙について>

「試着室」を撮影した際の撮影風景の写真を使用した。  
初めて撮影風景をタイムラプスで撮影した作品。

最後までお読みいただきありがとうございました。





電子レンジ解凍まで

Asahi Kasei

SmartZip PLUS  
FEEL IT, HEAR IT, SEE IT!

Open Tab

